2026 年 11 月 19 日

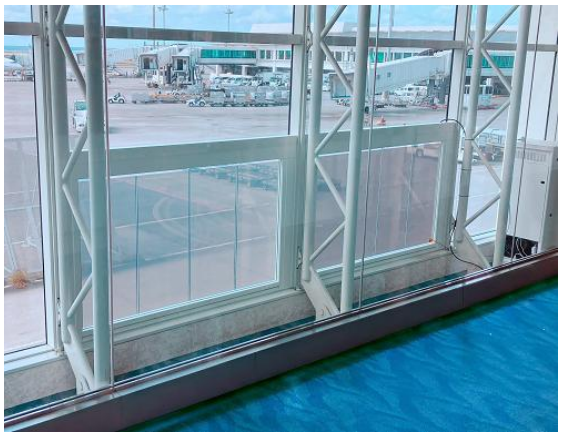
報道関係各位

那覇空港ビルディング株式会社
株式会社クラフティア沖縄支店
YKK AP 株式会社
株式会社 YKK AP 沖縄

那覇空港旅客ターミナルビルでガラス型ペロブスカイト太陽電池を内窓に用いた建材一体型太陽光発電（BIPV）の実装検証を開始

台風・塩害・強い紫外線などにより、太陽光パネルの屋外設置が困難な沖縄での有用性を確認

那覇空港ビルディング株式会社（本社：沖縄県那覇市、社長：照屋 義実）、株式会社クラフティア沖縄支店（支店：沖縄県豊見城市、支店長：岩久 博之）、YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：魚津 彰）、株式会社 YKK AP 沖縄（本社：沖縄県うるま市、社長：伊藤 万喜男）の 4 社は、那覇空港旅客ターミナルビルにおいて、ガラス型ペロブスカイト太陽電池（※1）を内窓に用いた建材一体型太陽光発電（BIPV：Building Integrated Photovoltaics ※2、以下「BIPV 内窓」）の実装検証を開始しましたのでお知らせします。BIPV 内窓の実装検証を空港ターミナルビルで行うのは、全国初（※3）の取り組みとなります。



BIPV 内窓



設置場所（那覇空港旅客ターミナルビル コンコース）

国のエネルギー政策の基本方針を示す第 7 次エネルギー基本計画では、2040 年までに、太陽光発電の比率を電源構成の 22～29%に引き上げる方針が示されており、その実現に向け、次世代型太陽電池の社会実装を加速させることが求められています。大規模な太陽光パネルの設置場所が限られるエリアにおいて、既存の建築物を生かし、建物の内側に太陽電池を設置する手法は、「安全性」や「景観・採光の確保（透過性）」といった多くの課題をクリアできる有効な手段です。特に、屋外への設置が困難な沖縄特有の環境下（台風・塩害・強い紫外線など）において、BIPV 内窓は非常に高い親和性を持っています。本実装検証において、各社は以下の目的・役割をもって取り組みます。

【本実装検証の概要】

（１）目的

①沖縄特有の気象条件下における BIPV 内窓の有用性を検証すること

②那覇空港旅客ターミナルビル施設全体への本格設置に向けた検討を行うこと

（２）期間

BIPV 内窓の実装期間　2026 年 11 月 19 日～2027 年 10 月 31 日（予定）

（３）設置場所

那覇空港旅客ターミナルビル（沖縄県那覇市字鏡水 150 番地）

2 階ターミナルエリア コンコース中央部の吹き抜けカーテンウォール 1 段目（制限エリア内）

（４）BIPV 内窓の構成

ガラス型ペロブスカイト太陽電池を用いた BIPV 内窓：2 窓

モジュール寸法：幅 2,030mm 高さ 1,200mm ×2 枚 （透過率 40%・1 枚、20%・1 枚）

（５）本実装検証における各社の役割

■那覇空港ビルディング

①実装検証プロジェクトの統括、および実装フィールド（空港施設）の提供

②実装結果を踏まえた、ターミナルビル全体への本格導入に向けた検討・推進

■クラフティア沖縄支店

①電気工事一式（設置、撤去工事等含む）および測定環境の整備

②各種測定機器（データロガー、日射計、熱電対など）の調達・設置

③発電量等のデータ測定・検証、および関係各社へのデータ提供・共有

■YKK AP

①当該設置 BIPV 内窓の企画設計、PV モジュール選定

②取得データの確認および検証

■YKK AP 沖縄

①YKK AP と共同で BIPV 内窓の設計、製造

②BIPV 内窓の設置工事

※1：従来型のシリコン系太陽電池とは異なる構造、材料で製造された太陽電池。耐荷重の小さい場所や曲面構造など従来設置が困難だった場所への導入には薄膜軽量のフィルム型、透過性太陽電池には主にガラス型で開発が進んでいる。

※2：窓、壁など建物の構造部分や外装材と太陽電池が一体となった太陽光発電システム。内窓にすることで設置工事やメンテナンスが容易なうえに、断熱性や遮音性と合わせてエネルギーを得ることが可能であり、太陽光発電の更なる普及に繋がるものとして注目されている。

※3：日本国内の空港ターミナルビル内におけるガラス型ペロブスカイト太陽電池を用いた BIPV 内窓の実装検証として全国初。2026 年 11 月時点／各社公式 HP の公開情報を調査（YKK AP 調べ）